

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	言語発達障害Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	前期	教室名	402
担 当 教 員	榊 智史	実務経験とその関連資格	医療機関、発達障がい支援施設にて言語聴覚士として勤務。 言語・コミュニケーション、学習支援を行ってきた。 資格:言語聴覚士・公認心理師・臨床発達心理士			
《授業科目における学習内容》						
言語聴覚士として、言語・コミュニケーション・学習などに支援が必要な子どものみかた・評価について学ぶ。 まだ子どもにあわせて、どのような支援をしていけばよいか、を授業内でディスカッション等を通して考えていきたい。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験(100%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
深浦順一・藤野博・石坂郁代編「言語発達障害学第3版」医学書院, 2021						
《授業外における学習方法》						
<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識同士を関連付け・紐づけしていくことを意識してほしい。 ・定型の発達段階を常に意識・整理しておいてほしい。 						
《履修に当たっての留意点》						
・言語聴覚士として、根拠に基づいた分析、指導・支援の立案ができるよう心がけてほしい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語・コミュニケーションの発達の全体像を捉えることができる。	プロジェクター パソコン 配布資料	・教科書の該当ページの復習	
		各コマにおける授業予定	前言語期～学童期までの、大まかな言語発達の流れを確認する。			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	前言語期の言語・コミュニケーション発達特徴・段階を捉えることができる。	プロジェクター パソコン 配布資料	・教科書の該当ページの復習	
		各コマにおける授業予定	有意味語獲得前の、言語・コミュニケーションの土台となる認知や社会性の発達について学ぶ。			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	幼児前期の言語・コミュニケーション発達特徴・段階を捉えることができる。	プロジェクター パソコン 配布資料	・教科書の該当ページの復習	
		各コマにおける授業予定	幼児前期の子どもがどのような言語から獲得し、またそれをどのように拡大していくのかを確認していく。			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	幼児後期の言語・コミュニケーション発達特徴・段階を捉えることができる。	プロジェクター パソコン 配布資料	・教科書の該当ページの復習	
		各コマにおける授業予定	幼児後期の構文や会話の発達、また学童期を前にした読み書きの発達について確認していく。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	学童期の言語・コミュニケーション、学習面の発達特徴・段階を捉えることができる。	プロジェクター パソコン 配布資料	・教科書の該当ページの復習	
		各コマにおける授業予定	学童期に求められる学習言語や、読み書きの能力について確認していく。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	知的障害について、その定義や特徴を説明できる。	プロジェクター パソコン 配布資料	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	知的障害の診断基準や予後、支援のあり方について考える。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	知的障害の支援について述べることができる。	プロジェクター パソコン 配布資料	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	知的障害の子への言語指導・支援などについて検討する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラム障害について、その定義や特徴を説明できる(1)	プロジェクター パソコン 配布資料	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	自閉症スペクトラム障害の障害特性や言語・コミュニケーション面の特徴について学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラム障害について、その定義や特徴を説明できる(2)	プロジェクター パソコン 配布資料	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	自閉症スペクトラム障害の障害特性や言語・コミュニケーション面の特徴について学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラム障害の支援について述べることができる(1)	プロジェクター パソコン 配布資料	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士として、自閉症スペクトラム障害のお子さんにどのような支援ができるか検討する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラム障害の支援について述べることができる(2)	プロジェクター パソコン 配布資料	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士として、自閉症スペクトラム障害のお子さんにどのような支援ができるか検討する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	注意欠如・多動性障害について、その定義や特徴を説明できる(1)	プロジェクター パソコン 配布資料	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	注意欠如・多動性障害の障害特性や言語・コミュニケーション面の特徴について学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	注意欠如・多動性障害の特徴について、その定義や特徴を説明できる(2)	プロジェクター パソコン 配布資料	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	注意欠如・多動性障害の障害特性や言語・コミュニケーション面の特徴について学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	注意欠如・多動性障害の支援について述べることができる。	プロジェクター パソコン 配布資料	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士として、注意欠如・多動性障害のお子さんにどのような支援ができるか検討する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	限局性学習障害について、その定義や症状を説明できる(1)	プロジェクター パソコン 配布資料	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	限局性学習障害の障害特性やそのサブタイプについて学ぶ。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	言語発達障害Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	前期	教室名	402
担 当 教 員	榊 智史	実務経験とその関連資格	医療機関、発達障がい支援施設にて言語聴覚士として勤務。 言語・コミュニケーション、学習支援を行ってきた。 資格:言語聴覚士・公認心理師・臨床発達心理士			
《授業科目における学習内容》						
言語聴覚士として、言語・コミュニケーション・学習などに支援が必要な子どものみかた・評価について学ぶ。 まだ子どもにあわせて、どのような支援をしていけばよいか、を授業内でディスカッション等を通して考えていきたい。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験(100%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
深浦順一・藤野博・石坂郁代編「言語発達障害学第3版」医学書院, 2021						
《授業外における学習方法》						
<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識同士を関連付け・紐づけしていくことを意識してほしい。 ・定型の発達段階を常に意識・整理しておいてほしい。 						
《履修に当たっての留意点》						
・言語聴覚士として、根拠に基づいた分析、指導・支援の立案ができるよう心がけてほしい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	限局性学習障害について、その定義や症状を説明できる(2)	プロジェクター パソコン 配布資料	・教科書の該当ページの復習	
		各コマにおける授業予定	限局性学習障害の障害特性やそのサブタイプについて学ぶ。			
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	限局性学習障害の支援について述べることができる(1)	プロジェクター パソコン 配布資料	・教科書の該当ページの復習	
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士として、限局性学習障害のお子さんにどのような支援ができるか検討する。			
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	限局性学習障害の支援について述べることができる(2)	プロジェクター パソコン 配布資料	・教科書の該当ページの復習	
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士として、限局性学習障害のお子さんにどのような支援ができるか検討する。			
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	特異的言語発達障害について、その定義や症状を説明できる。	プロジェクター パソコン 配布資料	・教科書の該当ページの復習	
		各コマにおける授業予定	特異的言語発達障害の障害特性や言語・コミュニケーション面の特徴について学ぶ。			
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	特異的言語発達障害の支援について述べることができる。	プロジェクター パソコン 配布資料	・教科書の該当ページの復習	
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士として、特異的言語発達障害のお子さんにどのような支援ができるか検討する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	AAC(拡大・代替コミュニケーション)について説明できる。	プロジェクター パソコン 配布資料	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	AACを活用した支援方法について学ぶ		
第22回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	言語・コミュニケーションの支援・指導技法の実際について説明できる。(1)	プロジェクター パソコン	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	事例検討などを通して、実際の支援・指導方法について学ぶ		
第23回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	言語・コミュニケーションの支援・指導技法の実際について説明できる。(2)	プロジェクター パソコン	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	事例検討などを通して、実際の支援・指導方法について学ぶ		
第24回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	言語・コミュニケーションの支援・指導技法の実際について説明できる。(3)	プロジェクター パソコン	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	事例検討などを通して、実際の支援・指導方法について学ぶ		
第25回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの障害特性・認知特性に応じた支援について述べることができる(1)	プロジェクター パソコン	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士の子どもの障害特性・認知特性に応じた支援について検討する。		
第26回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの障害特性・認知特性に応じた支援について述べることができる(2)	プロジェクター パソコン	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士の子どもの障害特性・認知特性に応じた支援について検討する。		
第27回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	学校教育における言語発達障害児への支援について説明できる。	プロジェクター パソコン	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	特別支援教育の歴史や現状について学ぶ		
第28回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	保健・医療・教育との連携について述べることができる。	プロジェクター パソコン	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士の地域支援・他機関との連携について学ぶ		
第29回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの評価をまとめることができる(1)	プロジェクター パソコン	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	これまでの学びを活用して、子どもの評価をまとめる作業を行う。		
第30回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの評価をまとめることができる(2)	プロジェクター パソコン	教科書の該当ページの復習
		各コマにおける授業予定	これまでの学びを活用して、子どもの評価をまとめる作業を行う。		